

道徳通信

令和3年11月10日
黄ブロックNo. 3
青ブロックの教職員



「時を超えてつながる思いをみつめてみよう」～道徳「サグラダ・ファミリア」を通して考えました～

1882年着工のサグラダ・ファミリア。ガウディは、生涯を通して建築に取り組み続けました。「私がこの聖堂を完成できないことは、悲しむべきことではない。必ず、後を引き継ぐ者たちが現れ、より壮麗に命を吹き込んでくれる。」という言葉を残しています。この教会の彫刻を40年以上彫り続けている外尾悦郎さんは、サグラダ・ファミリアを「永遠の命をもった生き物のような大きな存在」と強く感じるようになり、「時代を超えた営みの中では、人間一人の命なんてちっぽけなもの」だから、「すごい生き物の一部になれることのほうが、喜びは大きい」と考えるようになります。ガウディの思いは外尾さんたちに引き継がれ、外尾さんの思いも次の世代に引き継がれていきます。

授業では、サグラダ・ファミリアの建設に携わる人々に関する文章を通して、時を超えてつながる思いを見つめました。

1年 ●● ●●くん

「思い」が大切で自分が思いを伝えたいものにどれだけ思いを伝えられるかで先が変わってくると思う

1年 ●● ●●さん

何かを大切にしたいやこれが好きと言う思いがその人の心に何年経っても残って、その思いが他の人の心に残ると言うことの繰り返しかなと思った。

2年 ●● ●●くん

作っている人も第三者も完成した姿を見てみたいという気持ちがあると思うから、気持ちを曲げずに真っ直ぐに伝えていたらみんなついてきてくれるのかなと思った

2年 ●● ●●くん

時を超えても思いが強ければ、永遠に繋がっていると思った。未完のままでも、140年も造り続けていて、まだ完成していないという壮大さに魅力を感じた。

2年 ●● ●●くん

人に愛される作品は何年経ってもずっと愛され続け造り続けられるものだと思います。

3年 ●● ●●くん

現代の人が過去の人の思いを間違えて解釈することもあると思う。人の思いは結構単純で「恨み」とか「恩義」とかが多いと思う。でも時を超えるおもいはこういう単純なものではないので、それを解釈しようとする方が無理だと思う。繋がらない思いの方が多い

3年 ●● ●●くん

サグラダ・ファミリアは100年以上作り続けてまだ完成していない不名誉な建物だと思っていたが、ちゃんと理由があった。完成しないからこそ愛着の湧く建物だと思った。

3年 ●● ●●さん

普通に生活しているなら時を超えてつながることはない。しかし、サグラダ・ファミリアのような昔の人たちの思いがあるものは変わらないと分かった。また日本で時を超えてつながるには伝統工芸に携わるなど、過去から続いている伝統に関わることだと思う。

3年 ●● ●●さん

時を超えても繋がりを続けることのできるものを生み出したガウディはとてもすごい人だと知る事ができました。140年も続く建設はその流れこそが作品のように感じました。未完成だからこそ沢山の人の思いが変わらずに受け継がれていると思いました。